



TWMMU

Tokyo Women's Medical University



2026 医学部案内

東京女子医科大学

女性の社会的地位の向上と
女性医師の育成に生涯を捧げた
東京女子医科大学の創立者

吉岡彌生



東京女醫學校創立当時の吉岡彌生(29歳)

建学の精神

東京女子医科大学は、1900年(明治33年)に創立された東京女醫學校を母体として設立された。東京女子医科大学の創立者である吉岡彌生は、1952年(昭和27年)の新制大学設立に際し、東京女醫學校創立の主意をもって建学の精神とした。その主旨は、高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出することであった。新制大学設立時の学則には「医学の蘊奥(うんおう)を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する。」と記されており、これが本学の建学の精神である。現在の東京女子医科大学の使命は、最良の医療を実践する知識・技能を修め高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行うことである。大学建学の精神に基づき、大学教育では社会に貢献する女性の医療人を育成する。

●吉岡彌生

1871年

遠江国城東郡嶺向村(現静岡県掛川市上土方)で生まれる。

1889年

上京し、済生学舎に入学。「女医学生懇談会」をつくる。

1890年

内務省医術開業試験前期試験に合格。

1892年

医術開業試験後期試験に合格。

1895年

吉岡荒太と結婚。

1897年

飯田町4丁目9番地に東京至誠医院を開院。

1900年

東京至誠医院の一室に東京女醫學校を創立。

1907年

東京女醫學校校長。

1920年

日本女医会会長。

1921年

文部省生活改善講習会講師となる。
ドイツよりプロイセン赤十字第二等第三章を贈呈される。

1924年

勲六等瑞宝章を授与される。

1928年

第一回汎太平洋婦人会議(於ホノルル)に日本女医会代表として出席。
大礼記念章を授与される。

1933年

文部省社会教育調査委員会委員に就任。
教育功労賞を受章。

1935年

日本赤十字社特別社員となり、有功章を受章。

1937年

女性として初めて内閣の教育審議会委員となる。

1939年

厚生省・文部省の囑託として、欧米諸国の母子保護事業・医学教育を視察。

1940年

勲五等瑞宝章を授与される。

1946年

日本医師会参与。厚生省顧問に就任。

1952年

東京女子医科大学学頭に就任。

1955年

勲四等宝冠章を授与される。

1959年

5月22日午後10時55分、世田谷区羽根木町の自宅で逝去(享年88)。
正五位勲二等瑞宝章を追贈される。



1890年5月
医術開業試験前期試験合格
19歳の吉岡彌生(右端)



57歳洋装の吉岡彌生



1928年10月
第一回汎太平洋婦人会議を終え横浜港船上に学生の出迎えを受ける

高い技能と豊かな人間性を備えた 女性医療人を育成します



理事長 清水 治

東京女子医科大学は、創立者である吉岡彌生先生によって明治期に設立された東京女醫學校を母体としており、125年に及ぶ長い伝統を有しています。建学の精神は、「医学の蘊奥を究め」とともに「人格を陶冶して社会に貢献する」女性医療人を育成することにあります。そして教育・研究・診療のすべての基盤として「至誠と愛」の理念を掲げています。

医学部教育を通じて、高い知識・技能を修得するのみならず、豊かな人間性を備えた医療人を育成することを目指します。病者(患者さん)の悩みや不安に接して、きわめて誠実であって(至誠)、慈しみの心(愛)をもって病者を癒すことを原点に研鑽を続けていくことが肝要です。

また本学は、唯一の女子医科大学として、まだ相対的に少ない女性医師の活躍の基盤作りに貢献しています。そのため、学生時代から医師になった後を通じてキャリア・サポートを行う仕組みを備えております。これまでに多くの優れた女性医療人、指導的役割を果たす女性社会人を輩出してきました。

昨年、本学では、不祥事を深く反省して、理事会、評議員会を一新し、ガバナンスやコンプライアンスの体制を抜本的に再構築しました。教職員一丸となり、新生東京女子医科大学として、優れた教育・研究成果の社会への還元、先端的な医療の提供により一層の社会貢献を行うことを目指して、全力で努めてまいります。

少子高齢化の進展、医療技術の進歩の下で、医療の役割はますます重要になっています。皆さんが東京女子医科大学で、熱意にあふれる先生方の指導の下、附属3病院とも連携した講義、演習、実習を通じて、充実した学生生活を送られることを期待しております。

■ 大学の理念

至誠と愛

東京女子医科大学の使命を達成するための教育・研究・診療の基盤となる理念は、「至誠と愛」である。至誠は、「常住不断私が患者に接するときの根本的な心構えを短い二つの文字のなかに言い現したもの(吉岡彌生傳)」という創立者吉岡彌生の座右の銘であり、「きわめて誠実であること」「慈しむ心(愛)」は教育・研究・診療の総ての場において求められる。大学およびそこに学び働くものは本学の理念である「至誠と愛」に従って活動しなくてはならない。

医の実践力と慈しむ心の姿勢を 着実に習得していただきます



学長 三谷 昌平

東京女子医科大学では、全国に先駆けて2011年に医学部カリキュラムにアウトカム基盤型教育を取り入れました。以前のカリキュラムでは、講義や実習を行なえば、学生は受講内容を理解できているものと考えて、スケジュールを進めて行くという方法でした。アウトカム基盤型では、どの学年にはどのような能力が身についているかを設定して、それが段階的に実現可能な教え方をするやり方です。受講内容の成果目標がはっきりしていると、試験の準備も明確になりますし、学修する際のポイントも掴みやすくなります。受験勉強と医学部に入学してからの学修内容は大幅に異なるが故にこのような学修方法が重要なのです。

東京女子医科大学でのカリキュラムは医療人のコミュニケーション能力開発を重要視しています。本学で長年実施してきたチュートリアル教育をはじめとしたグループ学修において、自分の考えをまとめて他のメンバーに伝え、他のメンバーの意見を受け入れつつ発展させることは将来の医療・研究現場では必須のスキルです。日常の気づきや医学的課題において、繰り返しこのような学修方法を経験することで、教科書などで身につける知識以上の理解度に到達するだけでなく、課題を正確に捉え、解決する能力を身につけることができるのです。

学修の定着度が向上し、コミュニケーション能力が磨かれることは、学業だけでなく、一生の宝物となる素晴らしい人生経験となります。このような環境はあなたの医師としての将来を切り拓くはずです。

優れた知識や技能を備え 病む人を癒す崇高な心を抱き 自立した社会に貢献する女性医師を育成



医学部長 坂井 修二

本学は、創立者吉岡彌生先生の信念である「至誠と愛(きわめて誠実であることと慈しむ心)」を理念とし、建学の精神に基づいて、優れた知識・技術を持つとともに、病気を癒す崇高な心の両者を兼ね備え、精神的・経済的に自立した社会に貢献する女性医師の育成に努めています。入学後は、「至誠と愛」の実践学修などを通じて、医療人としての心を育てていきます。2020年度より医学部、看護学部が融合した彌生記念教育棟では有機的な協働教育、リーダーシップ教育を展開し、良質なチーム医療を行うとともに、指導的役割を果たすことのできる女性医療人の育成が推進されています。

併設の女性医療人キャリア形成センターでは、学生時代から医師になった後も連続したサポートを受けられる仕組みがあり、他大学には類をみない女性がキャリアを継続しやすい環境が整っています。

多くの卒業生が地域医療に貢献し、大学では教授、准教授、講師として教育や研究に携わるという豊富なロールモデルの下、強いリーダーシップを持って日本のみならず国際的にも活躍し、次世代を牽引し続けることのできるような女性医師を目指して下さい。



河田町キャンパスのシンボルだった一号館

CONTENTS

- 03 建学の精神
- 04 理事長メッセージ／大学の理念
- 05 学長・医学部長メッセージ
- 06 沿革
- 07 彌生記念教育棟
- 08 教育コンセプト／組織概略図
- 09 女子医大スタイル
- 10 国際交流
- 12 カリキュラム
- 14 Step by Step 1・2・3学年
- 16 Step by Step 4・5・6学年
- 18 キャンパスライフ
- 20 クラブ・同好会
- 22 女子医大生の1日
- 24 キャンパスガイド
- 30 卒業後の進路
- 31 活躍する卒業生
- 33 同窓会
- 34 大学院
- 35 奨学金・教育ローン・学費
- 36 医療施設
- 38 研究施設
- 40 2026年度入学選抜
- 42 周辺ガイド・アクセス

東京女子医科大学 120余年の歩み

1900年	東京女醫學校創立
1912年	財団法人東京女子医学専門学校設立 東京女子医学専門学校開校
1930年	附属産婆看護婦養成所開設(1947年廃止)
1944年	東京女子厚生専門学校(保健婦養成)開校(1951年閉校)
1947年	財団法人東京女子医科大学予科認可 東京女子医科大学予科開設
1950年	東京女子医科大学医学部開設
1951年	学校法人東京女子医科大学認可 附属看護学院(乙種看護婦養成)開設
1952年	東京女子医科大学開校
1953年	附属看護学院を准看護学院に改称(1973年廃止)
1958年	大学院医学研究科開設
1965年	附属高等看護学校開校
1969年	看護短期大学開校(2001年閉校)
1972年	附属第二高等看護学校開校 (1977年附属第二看護専門学校に改称)
1975年	看護短期大学専攻科(助産婦養成)開設
1977年	附属高等看護学校を附属看護専門学校に改称(1990年閉校)
1995年	附属第二看護専門学校を看護専門学校に改称
1998年	看護学部開設
2001年	大学院医学研究科に先端生命医科学系専攻を開設
2002年	大学院看護学研究科博士前期課程開設
2004年	大学院看護学研究科博士後期課程開設 看護学部認定看護師教育センター開設
2008年	先端生命医科学センター開設
2009年	男女共同参画推進局開設
2010年	統合医科学研究所開設 早稲田大学との大学院共同教育課程開設 医療人統合教育学修センター開設
2012年	臨床研究支援センター開設
2014年	女性生涯教育支援センター開設
2017年	男女共同参画推進局を女性医療人キャリア形成センターに改称
2018年	実験動物研究所開設
2020年	新校舎棟(彌生記念教育棟・巴研究教育棟)竣工 研究推進センター開設
2022年	女性生涯教育支援センターを巴女子学生会館に改称



東京女醫學校正門(1906年)



吉岡荒太のドイツ語講義(1917年)



吉岡彌生校長の診察



臨床講堂内部



東京女子医科大学正門



東京女子医科大学創立百周年記念式典



先端生命医科学センター

新たな歴史を刻む学びのステージ

1930年に建てられ、東京女子医科大学の歩みを見守ってきた一号館。河田町キャンパスのシンボルでもあったこの建物は、2015年に85年の歴史に幕を閉じ、その跡に2020年2月、最新設備を備えた新校舎棟（彌生記念教育棟）が竣工し、同年4月から医学部、看護学部、講義室、図書館、基礎医学系の研究室などとして活用されています。新たな学びのステージとなるこの新校舎棟から、次代を担う多くの女性医療人が巣立っていくことでしょう。



3階屋上テラス



彌生記念教育棟



図書館



カフェテリア

統合カリキュラムと 「至誠と愛」の実践学修を通し 医師としての基盤を育む



教務委員長 長坂 安子

医の道は生涯にわたり己を磨き学び続ける歩みであり、医学部教育はその原点です。東京女子医科大学では、基礎と臨床を隔りなく学ぶ統合カリキュラムにより基本的診療能力と問題解決能力(「医の実践力」)を身に着け、本学の特色である「至誠と愛」の実践学修を通して、医師として不可欠な「慈しむ心の姿勢」を育みます。また、臨床現場へのearly exposure(早期体験)によって、低学年から医師という職業を理解し、自分なりの目標を立てられるよう、教職員が一丸となり指導します。更に、シミュレーション教育などのアクティブラーニングや、evidence-based medicine(エビデンスに基づく医療)の実施に欠かせない臨床英語学とAI/データサイエンス等の縦断科目により、学生の可能性を余すところなく引き出します。本学は、病に苦しむ患者さんのため学修に邁進する学生のみなさんを、精一杯応援致します。

心身ともに健康で
充実した学生生活を過ごせるよう
サポート

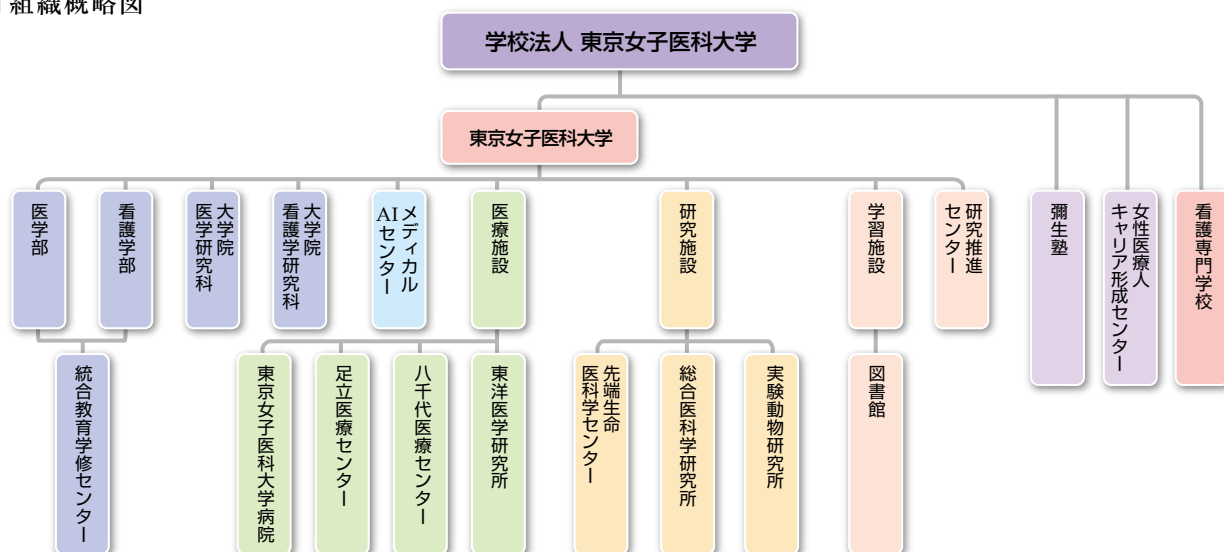


学生部長 石津 綾子

本学では、一人ひとりの学生が自分らしさを大切にしながら、心身ともに健康で希望に満ちた充実した学生生活を過ごせるよう、多彩なサポート体制を整えています。学業や学生生活において、学年担任や多くの教職員が学生一人ひとりの個性や目標に寄り添い、学生が遺憾なく能力を発揮できるよう支援をしています。学内の年間行事や試験、進級に加え、学友会やクラブ・同好会、さらには東日本医科学生総合体育大会など、多様な活動を通じて学生が主体的に取り組める環境が整っています。健康面において、学生健康管理室の校医の先生をはじめ、大学病院の各専門領域の最前線の医師が連携し、学生のニーズに幅広く対応しています。さらに、奨学金や健康、生活面の悩み相談にも対応し、至誠父母会と連携した医師国家試験対策や、卒業後の女性医師としてのキャリア支援に至るまで、卒業生である教員が数多く参加し、幅広い支援を行っています。

医学教育分野別評価で高く評価されたカリキュラムとこうした支援体制を有機的に組み合わせることにより、多くの学生が6年間ストレートで進級し、卒業できるのが本学の特色です。

■ 組織概略図



思考力・判断力・実践力を養う 女子医大ならではの教育

問題解決力開発

■テュートリアル・TBL (Team-based learning)

学生自ら問題発見と解決法を探る能動的学修・ICTを駆使したシステムによる実践的学修

テュートリアルは、学生自身で問題発見と解決を行う新しい教育法として1990年に本学が日本で初めて導入しました。初めに学生に問題点を自分で見つけるきっかけとなる事例(課題)が提示され、学生は課題文から問題点を見つけ、自己学修で解決します。問題発見解決の過程で、学生は6～8人の少人数グループに分かれ事例を討論し、学んできたことを教え合い確実なものにします。本学部では1年生前期に実施しています。

TBLは、4学年の臨床推論学修として2008年から導入しているもので、学生が個人とチームで問題解決を行いながら臨床的思考力を修得していく実践的な学修法です。教員から出題された問題をまず学生が個々に解答し、次に6～7人のチームで討論しながらチームとしての解答を出します。そしてチーム間での討論を経て、最後に教員が解答・解説を行います。こうした流れを、レスポンスアナライザーやWebClassという教育システムを駆使しながら進めているのが本学の大きな特徴です。

本学部では2013年から1学年の授業でも生理学学修の一環として、2019年から3学年の授業でもTBLを導入しました。2020年からは1学年後期～4学年の全ての学年の授業でTBLを本格的に導入しています。

医療実践力開発

■臨床・実践研修

様々なプログラムを通じて実践的に学びます

本学では、4年生の後期から臨床基礎実習が始まり、本格的な臨床実習は4年生の1月から6年生の7月にかけて行われますが、低学年から授業で学んでいることがどのように臨床と関係しているかを「至誠と愛」の実践学修の様々なプログラムを通じて学んでいきます。1年生で、医師や看護師のシャドーイング実習、2年生で患者目線での実習や患者体験ロールプレイ、また他職種との連携についても学びます。3年生では地域の診療所での研修も行われます。

4～6年生の臨床実習では、本学に隣接する東京女子医科大学病院をはじめ、足立医療センター、八千代医療センターなどの附属病院において先端的な高度専門医療や地域医療、代替医療、女性医療など広い領域にわたる実習機会を提供しています。

■協働教育

看護学部と合同で“チーム医療”を体得

本学では、「チーム医療」(協働)を体得するために、医学部と看護学部が合同で学修する機会を設けています。例えば、患者安全学、チーム医療、解剖慰霊祭ワークショップ、薬害ワークショップがあります。

■キャリア教育

継続して医療に携わっていくための
学修機会を提供

本学のめざす医学教育は、女性医師が継続して医療に携わって社会貢献を果たすことであり、卒業生の多くがキャリアを継続するという風土があります。こうした風土を受け継ぎ、学内・学外の先輩による教育を通じてキャリア継続のためのビジョンを描けるよう、さまざまな学修機会を提供しています。毎年5月に行われる「吉岡彌生記念講演会」もその一つです。女性医師育成の歴史や卒業生との交流などから、キャリア継続に向けた有形・無形の多くの気づきやヒントが得られます。



私立医科大学の海外交換留学のパイオニアとして 世界に通用するグローバルな医師を養成



本学の国際交流は、イギリスのカーディフ大学(旧ウェールズ医科大学)と国際交流協定を結び、2人の学生が交換留学生第一号としてイギリスへ渡った1997年に本格的なスタートを切りました。当時、私立の医科大学が海外交換留学プログラムを導入したのは画期的なことでした。その後、国際交流協定校を増やし、現在その数は世界9か国・地域に13校を数え、これまで427人の学生をこれらの協定校へ派遣するとともに、受入学生数も432人にのぼっています。

派遣留学は6年生を対象とし、留学先での病院実習は単位認定されます。派遣学生はコロナ禍以前は毎年20人強を数えており、これは学年の5分の1に相当するように、留学する学生の割合が比較的高いのが本学の特徴の一つとなっています。海外交換留学プログラムは文部科学省の海外留学支援制度に採択されており、特色のあるプログラムとして特に高い評価を受けています。

■国際交流協定締結校(2025年5月現在)

※協定終結



自分がいかに知らないかを知るためにも海外留学は有意義です



東京女子医科大学病院小児科 准教授 石垣 景子

私は交換留学生第一号として1997年にイギリスのウェールズ医科大学(現カーディフ大学)へ留学しました。イギリスでは同じ5年生が医師として働いていたのが刺激的でした。また、GP(ホームドクター)という制度があり、患者さんがいきなり大学病院へ行くことがないのも新発見でした。

大学院へ進んでから2度目の留学チャンスを得てフランスへ行き、その後、文科省の派遣要員としてアメリカへも留学。2010年には筋ジストロ

フィーの遺伝子治療の最先端を学ぶために再びフランスとイギリスに留学しました。留学するごとに新しい友人ができ、それらの人脈が次の留学チャンスにつながりました。

海外には、行ってみないと分からないことがたくさんあります。自分がいかに知らないかを知るためにも、海外留学は有意義です。若いうちに交換留学制度を活用して視野を広げてほしいと思います。



■国際交流協定締結校と累計派遣・受入学生数(2025年5月1日現在)

単位:人

国・地域名	大 学 名	累計派遣学生数 (カッコ内は2025年度実績)	累計受入学生数 (カッコ内は2024年度実績)
イギリス	カーディフ大学	110(5)	96(3)
ベルギー	ブリュッセル自由大学	98(4)	102(4)
フランス	エクス＝マルセイユ大学	21(0)	40(2)
アメリカ	※ハワイ大学	17(0)	17(0)
	コロンビア大学	36(2)	18(1)
	※テキサス大学メモリアル・ハーマン病院	7(0)	0(0)
	マウントサイナイ医科大学	43(4)	36(4)
	ブラウン大学	8(0)	11(1)
	※ペンシルベニア州立大学	4(0)	7(0)
	南フロリダ大学	0(0)	0(0)
カナダ	※マギル大学モントリオール神経学研究所	1(0)	0(0)
ウクライナ	オデッサ医科大学	0(0)	2(0)
中国	上海交通大学医学院	27(1)	33(2)
	中国医科大学	16(0)	32(0)
台湾	台北医学大学	14(2)	11(1)
韓国	梨花女子大学	24(0)	22(0)
トルコ	ハジエテペ大学	0(0)	5(0)
合計		427(18)	432(18)

2019～2022年度派遣および2020～2021年度受入はCOVID-19感染拡大により中止 ※協定終結

Voice 派遣学生の声

学生が研修医と同等の役割を担っているのが驚きでした

私はベルギーのブリュッセル自由大学に留学しましたが、ベルギーでは学生が日本の研修医と同等の役割を担っていることに驚きました。患者さんがベルギー人のみならず国境を越えて医療がなされていたり、安楽死が合法であるなど新しい発見の毎日でした。現地の先生や学生から食事に誘われたり、逆にベルギーの学生を宿舎に招いてちらし寿司や肉じゃが、そばなどの日本食パーティーを開くなどして交流を深めました。(M.E.)



英語の環境下で精神的に成長することができました

私は憧れのアメリカ・コロンビア大学に留学しました。英語の環境下で2か月過ごしたことにより、精神的に成長することができたと思います。また、自分が何を学びたいかをきちんと考えて主張することができるようになりました。毎日通っていたメディカルセンターの入口には“Amazing things are happening here”の文字が掲げられていますが、本当に素晴らしいことがここで起きているのだと実感しました。(Y.S.)



アメリカで活躍している先輩方に刺激を受けました

マウントサイナイ医科大学に留学し、アメリカの学生のアグレッシブさを見習うべきだと痛感しました。言語や医学の知識以上に、病棟における医学生としての大きさやその姿勢に感銘を受けました。ボストン周辺に在住の女子医大出身の先輩方との交流会にも参加しました。アメリカで働くことのメリットなど、先輩方の経験談はとても参考になり、海外で活躍されている先輩がたくさんいることを誇らしく思いました。(R.Y.)



連続性・発展性のあるセグメントと 学年縦断型教育で医師としての実践力を修得

1～10のセグメント

本学部の6年間の教育カリキュラムは、連続性・発展性のある1～10のセグメント(教育単位)で構成されており、医師としての実践力を修得するためのアウトカム(目標)が定められています。セグメント1～3(1学年～2学年前期)では「人体の基本的構造と機能」、セグメント4～6(2学年後期～3学年)では「臓器・器官系の構造と機能の正常と異常」、セグメント7(4学年前期)

期)では「全身的な変化／医学と社会」、セグメント8(4学年後期)では「臨床入門」を学び、セグメント9(4学年後期～6学年前期)の「臨床実習」へと進みます。そしてセグメント10(6学年後期)では「全体統合／卒業試験」を行います。

セグメント2～6では講義・実習とともにTBLが行われ、セグメント7ではTBLで臨床推論学修を行います。

■ 6年間のカリキュラム(2025年度現在)

1年	前期 (4月～7月)	セグメント1	人体の基礎	人体の基本的構造と機能／ 人体の防御機構
	後期 (9月～3月)	セグメント2	人体の機能と 微細構造	
2年	前期	セグメント3	人体の構造と 疾患の基礎	人体の発生と全体構造／疾患の成り立ちと治療の基礎
	後期	セグメント4	臓器・器官系の構造と 機能の正常と異常1	
3年	前期	セグメント5	臓器・器官系の構造と 機能の正常と異常2／人の一生	臨床診断総論／循環器系／ 呼吸器系／腎尿路系／生殖器系／妊娠と分娩
	後期	セグメント6	臓器・器官系の構造と 機能の正常と異常3／医学研究	
4年	前期	セグメント7	全身的な変化と医学／ 医療と社会	全身的な変化／医学と社会
	後期	セグメント8	臨床入門 (共用試験 CBT／OSCE)	
5年	前期	セグメント9	医療と医学の実践 Post-CC OSCE	診療参加型臨床実習(研究実習)
	後期			
6年	前期	セグメント10	全体統合・ 総合達成度評価	卒業試験
	後期			

■ 学年縦断型カリキュラム
「至誠と愛」の実践学修／医療・患者安全学／基本的・医学的表現技術／国際コミュニケーション／AI・データサイエンスと医療／研究プロジェクト／選択科目

●CBT(Computer-Based Testing)はコンピュータを用いて医学の知識や思考力などを評価する共用試験OSCE(Objective Structured Clinical Examination)は患者接遇時における診療技能や態度などの実技を評価する共用試験です。4学年後期からの臨床実習に参加するためには、いずれの試験にも合格する必要があります。6学年では診療参加型実習の総仕上げとしてPost-CC OSCEを実施しています。



学年縦断型カリキュラム

1～10のセグメントに分かれた教育カリキュラムのほか、学年ごとに積み上げていく縦断型のカリキュラムとして以下の科目があります。

「至誠と愛」の実践学修

医師としての人間性を養う

使命感や倫理観、対話力など医師としての人間性を養成するカリキュラムです。講義だけでなく体験や実践、ロールプレイ、ワークショップなどさまざまな教育法で、思いやりのある温かい心や協調性を育んでいきます。

医療・患者安全学

患者安全について包括的・体系的に学ぶ

現在、医療界で重要な課題となっている患者安全につき、リスク管理から質改善などを通じて「組織人」としての医療者への成長を目標とし、知識・技能・行動・態度に亘って包括的かつ体系的に学んでいきます。

基本的・医学的表現技術

文書作成と表現技法を学ぶ

臨床では迅速かつ正確な文書の作成が求められます。文章表現や科学的レポート・報告書の作成をはじめ、診療録、患者要約、診療情報提供書などの医療文書、専門職としての文書作成、表現技法を基礎から身につけます。

国際コミュニケーション

医学を英語で直接学び、発信する

医療の国際化に対応できる医師を育成するために、1学年では濃密なカリキュラムのもとで、医学英語を読み、聞き、話すための基礎能力をしっかりと固めます。2学年以降はこの能力を応用して、医学情報を英語で直接収集するのみならず自ら世界に向けて発信し、さらには医療者や患者さんと意思疎通が図れることを目標に、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。

AI・データサイエンスと医療

情報処理技術と医学・医療への活用法を学ぶ

医療に関わる各種情報を効果的に活用するための情報の収集・整理・統合・分析の基礎から、ビッグデータの取扱いとデータの解釈、最終的にはAIについての基本的な知識と応用例を学びます。

研究プロジェクト

科学的プロセス・思考力を養う

3学年後期に科学的プロセス・思考力を養うため研究プロジェクトを設け、一定期間、研究活動を行います。興味のある学生は活動期間前から、あるいは活動期間後も継続して研究をすることができます。

選択科目

一般教養を身につける

人文科学系、社会科学系、自然科学系、外国語、保健体育など全23科目の中から6科目以上を4学年までの間に選択します。2学年からは早稲田大学のオープン科目を受講することもできます。

1 学年 人体の基本構造と機能を学ぶ

1 学年前期(セグメント1)は、「人体の基礎」を中心テーマとして人体、細胞、物質レベルで生命現象の基礎知識ととらえ方を学びます。後期(セグメント2)には「人体の機能と微細構造」を中心テーマとして学び、人体の防御機構を含む本格的な医学の統合的学修をスタートします。

■授業科目

【セグメント1】

- 人体の成り立ち
- 細胞の成り立ち
- 人体を構成する物質
- 体液と生体の恒常性
- 細胞の基本機能

【セグメント2】

- 組織の成り立ち
- 細胞と情報伝達
- 生体システムと制御機構
- 遺伝と遺伝子
- 生体物質の代謝
- 生体と微生物
- 生体防御・免疫
- 医学用語



2 学年 疾患の原因と治療の基礎を学ぶ

2 学年には疾患の原因と治療の基礎を身につけます。前期(セグメント3)では、「人体の構造と疾患の基礎」を中心テーマとして、人体発生・比較発生、人体全体構造、生体画像の基本、病因と病態、治療の基礎について学びます。後期(セグメント4)からは3 学年後期まで続く「臓器・器官系の構造と機能の正常と異常」が始まり、循環器系、呼吸器系、腎尿路系、生殖器官系の病態・疾患・治療について学びます。「至誠と愛」の実践学修では「外来患者付き添い実習」を行い、患者さんの視点から医療を考えます。

■授業科目

【セグメント3】

- 人体発生・比較発生
- 人体全体構造
- 生体画像の基本
- 病因と病態
- 治療の基礎

【セグメント4】

- 臨床診断総論
- 循環器系1
- 循環器系2
- 呼吸器系1
- 呼吸器系2
- 腎尿路系1
- 腎尿路系2
- 生殖器系1
- 生殖器系2
- 妊娠と分娩



3 学年 臓器・器官系の構造と機能を学ぶ

2 学年後期に引き続き、「臓器・器官系の構造および機能の正常と異常」について学んでいきます。前期のセグメント5では栄養・代謝系、内分泌・高血圧系、消化器系、新生児・小児・思春期、加齢と老化、臨終、後期のセグメント6では脳神経系、精神系、聴覚・耳鼻咽喉系、眼・視覚系、運動器系、皮膚粘膜系の構造と機能・病態・疾患・治療を学びます。「至誠と愛」の実践学修では女性医師のロールモデル実習、後期には研究プロジェクトを実施します。

■授業科目

【セグメント5】

- 消化器系1
- 消化器系2
- 内分泌・高血圧系
- 栄養・代謝系
- 新生児・小児・思春期
- 加齢と老化、臨終

【セグメント6】

- 脳神経系1
- 脳神経系2
- 精神系
- 運動器系
- 聴覚・耳鼻咽喉系
- 眼・視覚系
- 皮膚粘膜系
- 研究プロジェクト



熱心な同級生や先生方と共に医学の基礎を築く

西條 瑛花さん

幼い頃から医師を志し、その夢を実現するため女子医大へ入学しました。現在は、人体の構造や機能といった基礎医学を中心に学び、医師に必要な知識を一つひとつ積み重ねています。授業では臨床の現場で活躍されている先生方から直接話を伺う機会もあり、講義での学びが将来の診療にどう活かされるのかを具体的にイメージできることが魅力です。周囲には向上心の高い友人が多く、互いに励まし合いながら学びを深めています。授業の内容や課題について意見交換したり、わからないことを教え合ったりと、仲間との関わりを通じて多くの学びを得ています。困ったときには気軽に相談できる環境や、落ち着いた雰囲気のキャンパスにも支えられ、安心して学生生活を送ることができています。また「チュートリアル」の授業を通じて、自ら考え主体的に学ぶ姿勢や、生涯学び続ける医師としての在り方を身につけることができ、今後の成長への大きな土台となっています。



解剖実習を通して医学への志を新たに

小澤 嘉織さん

解剖実習では、ご献体してくださった方のお気持ちに精一杯寄り添えるよう、体の細部まで、確認できる全てをご遺体から学びとることを毎回心がけています。血管、神経の複雑な走行や臓器内の微小構造一つ一つに意味があり、私たちの体を動かし生を作ることを学び感銘を受けました。

女子医大には、共に励まし支え合う、あたたかい雰囲気があると思います。グループ実習やTBLでは、お互いの意見を大切に自分になかった視点を知ること、難題をチームで乗り越える方法を探していきます。また、校舎と病院が隣接しているため、臨床現場で活躍されている先生、先輩方が気さくに話しかけてくださる場があり、学年を超えた繋がりを持てることも魅力です。

選択授業では英語で論文を読みカルテを書く練習をしています。幼い頃から医師になりたいという目標を持っていたので、最新の医療技術や医学英語表現を学ぶことはとても興味深く、世界に視野を広げ、より深く医学を追求しながら患者さんのために自分ができることを磨き、増やしていきたいと思っています。



臨床医学を身につけ病態理解に努めています

大貫 心優さん

3学年では臨床医学を勉強しています。疾患について学習する際も、1、2年生で習った解剖学、生理学、生化学や組織学などの知識を統合させながら理解を進めております。また、3年生では研究に参加するプロジェクトがあり、私も挑戦しています。思い通りにいかないこともあり、研究が想像以上に地道で困難な道のりであると知りました。その難しさと向き合う医師の研究者としての側面に感銘を受けました。試験勉強や実習などは段々と要領をつかめるようになったため、友人とさらに発展させた議論することは楽しい時間の一つになっています。先生方はとても親身になって学生の学習状況を気にかけてくださりますし、臨床現場の見学を快く受け入れてくださる先生方も大勢いらっしゃるの、興味を持てば色々な機会をいただくことができ非常に刺激的な毎日を送っています。友人同士のみならず先生とも相談しながら学校生活を送れるような心強い環境が整っています。



4 学年 基本的診断法や治療・医療の基礎を学ぶ

前期のセグメント7では全身的な変化と、社会・法律・衛生・公衆衛生と医学の関わりを学び、TBL (Team-based learning) で臨床推論を学びます。後期のセグメント8では臨床実習開始までに修得しておくべき必要不可欠な知識・問題解決能力を客観的に評価する全国共通の共用試験実施評価機構による試験(CBT)と実技による客観的臨床能力評価(OSCE)が行われます。その後、臨床実習に備えた臨床入門を学びます。臨床入門は基本的な臨床技能だけでなく、画像・検査などの臨床的理解、麻酔・救急などの全身管理に関わる医学を学びます。セグメント8終了後、セグメント9として医療と医学の実践を学びます。

■授業科目

【セグメント7】

- 血液・リンパ系
- 感染症系
- 免疫・アレルギー疾患・膠原病
- 環境と健康・疾病・障害
- 社会制度と保健・医療・福祉
- 診療の基礎
- 基本的治療法
- 麻酔・周術期管理
- 救命救急医療
- 臨床推論 TBL

【セグメント8】

- 診療の基礎
- 東洋医学系
- 臨床基礎実習
- 入門型臨床実習



5 学年 臨床実習により実践力を身につける

前期・後期ともセグメント9として医療と医学の実践を学びます。東京女子医科大学病院のほか、本学が有する足立医療センターや八千代医療センター、さらに関連の医療機関や地域の医療施設などを実地研修の場として、学生の診療能力を高める臨床実習を行います。海外交換留学プログラムによる国外での臨床実習や基礎医学の研修も5学年生が対象で、毎年多くの学生が国際交流協定を結んでいる海外の大学へ留学します。

■授業科目

【セグメント9】

- 必修診療科実習
- 選択診療科実習
- 病院実習総論(講義)



6 学年 6年間の総まとめをして医師国家試験に臨む

6学年の前期は引き続き臨床実習の期間で、セグメント9の臨床実習修了後には実習で培った臨床技能と態度を評価するPost-CC OSCEが行われます。そして後期のセグメント10では、6年間の学修の総まとめを行います。症候・病態の検査と診断をはじめ、各臓器・器官の機能と病態、女性・母性の健康と疾患、発生・成長・発達と小児期の疾患、社会環境と保健医療などについて学修し、卒業試験と医師国家試験に臨みます。

■授業科目

【セグメント9】

- 選択診療科実習
- 病院実習総論(講義)

【セグメント10】

- 症候・病態の検査と診断
- 循環器・呼吸器の機能と病態
- 造血・感染の機構と病態
- 消化管と肝胆膵の機能と病態
- 内分泌・代謝・栄養・ホメオスタシスの機能と病態
- 精神・神経機能と病態
- 運動器の機能
- 腎泌尿・性器の機能と病態
- 感覚器の機能と病態
- 女性・母性の健康と疾患
- 発生・成長・発達と小児期の疾患
- 社会環境と保健医療



医学知識や技術の試験を受けて臨床実習へ

武藤 悠叶さん

4年生では、これまでに学んできた基礎医学の知識に加え、臨床医学の内容も取り入れ、患者さんの症状や病態を総合的に考える力が求められるようになりました。暗記中心の学習から応用力が問われる学びへと変わり、難しさを感じることも多いですが、その分やりがいも感じています。2024年度からCBTの実施時期が前倒しとなり、大学の期末試験と並行して準備を進めなければならない、時間の管理が難しい日々が続いています。友人と問題を出し合ったり、理解できない部分を教え合ったりしながら、お互いに支え合い乗り越えようと努力しています。臨床実習の開始も近づき、学んだ知識が医療現場でどのように生かされるのかを想像しながら、期待と緊張を感じつつ日々を過ごしています。忙しい中でも自分のペースを大切に、ヨガや軽い運動で気分転換を図ったり、家でゆっくり過ごす時間を確保したりして、心身のバランスを保つよう心がけています。今後の臨床実習に向けて、知識と技術をより一層向上できるよう努めたいと思います。



緊張感ある臨床実習の現場で患者さんと向き合う

益田 すみれさん

4学年の1月から臨床実習が始まり、患者さんの前に出て実際の医療を学ぶ毎日を経験しています。これまで座学で学んできたことを礎に、先生方やコメディカルの方々と共に診療に参加することで、将来医師として必要とされる知識や経験が少しずつ肉づいてきているのを感じています。

実際に患者さんから同意をいただいた上で問診を取ったり手技を経験したりすることもあり、日々成長の機会を与えて頂いていることに感謝が尽きません。女子医大病院だけでなく、地域の病院で実習をさせていただくこともあり、医療と社会の関わり方は一通りでは無いということも学びました。

女子医大の先生方は非常に教育熱心で優しい先生ばかりで、学びたいと思ったことをとことん学び尽くせるように付き合ってくださいます。ロールモデルとなる先生方との出会いも多く、お話を交わす中で自分の将来像を模索することができ、それがモチベーションにも繋がっています。支えてくださっている方々への感謝の気持ちを忘れず、引き続き実習生活を送れるよう励みたいと思います。



医療チームの一員として学び一人前の医師に

藤井 亜美さん

6学年では、臨床実習と並行して、国家試験に向けた勉強にも取り組みます。実習では、特に興味を持った診療科を選択し、手技や知識のさらなる習得だけでなく、患者さんとの信頼関係の構築、医療従事者同士のコミュニケーションも学んでいます。また、先生方のご厚意で学会に参加し、臨床と研究の最前線の風を感じる機会をいただくことができました。来年医師として働く姿を想像しながら過ごす毎日は、学びに満ちており、とても充実しています。医師国家試験が近づくにつれて、不安や緊張感が増しますが、6年間苦楽を共にしてきた友人たちと励まし合いながら学修を進めています。

私生活では、子を持つ母として、勉学と子育ての両立に奮闘中です。学生一人一人につき学生支援委員の先生に相談に乗っていただいたり、実際に仕事と家庭を両立しながらキャリアを積まれている先生にアドバイスをいただいたりしながら将来の展望を考えることができる女子医大は、女性医師を目指す者として恵まれた環境であると日々感じています。



日々の学修に彩りを添えるさまざまなイベントが かけがえのない学生生活を約束

入学式から卒業式までの6年間、キャンパスでは毎年さまざまなイベントが行われます。秋に開催される「女子医大祭」は毎年盛況を呈し、受験生にとっては本学への理解を深める絶好の機会となります。

年間行事

●入学式 ●前期授業開始 ●オリエンテーション (1学年) ●しらぎくの集い (2学年)	●吉岡彌生記念講演会 ●学祖墓前祭	●厚生懇談会 ●カリキュラム懇談会 ●学友会総会 ●東医体キャプテン会議	●Post-CC OSCE(6学年) ●夏季休業	●東医体 ●初期臨床研修医採用試験 ●後期授業開始	●及落会議 ●CBT(4学年)
4	5	6	7	8	9

入学式



晴れの入学式は弥生記念講堂にて看護学部と合同で行われます。

白衣授与式



臨床実習に入る4年生1人ひとりに、先生方から白衣を着せていただきます。緊張感の中にも医師になるという自覚を再認識する瞬間です。

吉岡彌生記念講演会



毎年5月に東京女子医科大学学会の主催により、本学卒業生による講演(テーマ:彌生先生を語る)や吉岡彌生研究奨励賞受賞者研究発表などのプログラムから成る講演会が行われます。医学部1~4学年生と看護学部2~3学年生が受講します。

東医体(東日本医科学生総合体育大会)



東日本の医科大学・医学部が参加する医学生のアスレツの祭典、それが東医体です。大会はすべて学生の手によって企画・運営されます。本学はバスケットボール、バレーボール、バドミントン、剣道、弓道など12競技に出場しています。



- 解剖慰霊祭
- 女子医大祭
- OSCE (4 学年)

- 厚生懇談会
- カリキュラム懇談会
- 学校推薦型選抜

- 創立記念日 (5 日)
- 冬季休業
- 卒業及落会議
- 白衣授与式 (4 学年)

- 医師国家試験
- 一般選抜 (第 1 次試験)
- 一般選抜 (第 2 次試験)

- 退任教授最終講義
- 卒業式
- 春季休業
- 及落会議

10

11

12

1

2

3

解剖慰霊祭



セグメント3 (2 学年前期) において、献体されたご遺体で解剖学実習が行われます。献体していただいた方々への感謝を込め、その霊を慰めるのが解剖慰霊祭です。

女子医大祭



毎年 10 月、2 日間にわたって女子医大祭が開催されます。クラブ・同好会の舞台発表や学術展示、受験相談会などが行われ賑やかな 2 日間となります。

卒業式



卒業式では、学長から卒業生 1 人ひとりに卒業証書が手渡されます。

クラブ・同好会活動で仲間との交流を深め、
より充実したキャンパスライフを満喫

文化系



写真部



茶道部



MESS (医学英語研究会)



地域保健研究会



SP研究会



美術部



軽音楽部



小児医療研究会



箏曲部



東洋医学研究会



華道部



天文同好会



室内楽団



音楽部

体育系



スキー部



バドミントン部



馬術部



山岳部



バスケットボール部



ワンダーフォーゲル部



ゴルフ部



卓球部



バレーボール部



Ballroom Dancing部



陸上競技部



ダンス部



弓道部



剣道部



軟式テニス部



アーチェリー部



フィギュアスケート同好会



硬式テニス部



フットサル部



水泳部

学修を中心としながら 人間性も養う豊かな学生生活を



勉強と部活を両立しながら毎日を大切に過ごしています

田村 優奈さん(3学年)

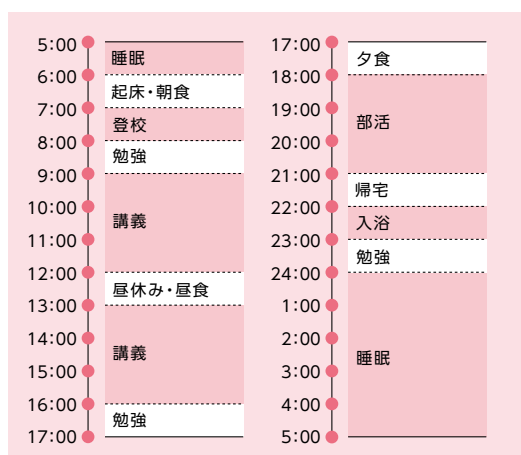
2年生の後期から臨床系の科目の講義が始まりました。復習に重点を置いて勉強していましたが、今年度の初めに医学の学び方として教えていただいた反転学修も取り入れ、積極的に講義に臨んでいます。

3年生では、女性医師のロールモデル実習、研究プロジェクトが行われます。至誠と愛を实践できる医師となれるよう、多くの学びと気づきを得て、実りある実習にしたいと思っています。また、多くの女性医師との出会いを通し、自分の目指す医師像も明確にしていきたいと考えています。

部活動は弓道部に所属し、学業と両立しながら継続しています。東医体や三十三間堂で開催される大の全国大会にも出場し、思い出深い経験をさせていただいています。今年は、幹部の学年として、皆で相談を重ねながら活動し、技術の向上にも努めています。

素晴らしい先生方と友人に恵まれた最高の環境で医学を学べることに感謝をしながら毎日を大切に過ごすように心がけています。

ONE DAY SCHEDULE



【時間割】3年次前期

□ 実習

	1 限目	2 限目	3 限目	4 限目	5 限目	6 限目
月	自己学修	TBL		自己学修	消化器系2	
火	栄養・代謝系	内分泌・高血圧系		消化器系2		
水	新生児・小児・思春期			新生児・小児・思春期	選択科目	
木	自己学修	TBL		自己学修		
金	加齢と老化、臨終	消化器系1	新生児・小児・思春期		消化器系2	
土						



自分なりに工夫して試験勉強は計画的に行なっています

明石 真優さん(6学年)

5年生の1月より始まった選択実習では各々選んだ診療科を回り、実臨床の場で学ぶことでそれぞれの魅力を感じながら充実した日々を過ごしています。実習の合間には、友人と国家試験や実技試験の勉強にも取り組んでいます。今まで実習で培ってきた技能・知識を共有して、みんなで励まし合いながら勉強しているので、とても心強いです。やらなければならない事が多くある中で偏りが出ないように、毎日時間を区切って課題を行うように心がけています。時には優先順位をつけながらも全てを満遍なく進めることで、精神的にも落ち着くことが出来ていると思います。休みの日には、舞台やミュージカルを観に行ったり友人と食事に行ったりしてリフレッシュしています。プライベートの時間も大切にしつつ、誠実に医学に向き合い、真面目に貪欲に勉強して知識や技術を身につけたいです。

ONE DAY SCHEDULE

5:00		17:00	帰宅
6:00	睡眠	18:00	入浴
7:00	起床・朝食	19:00	夕食
8:00	登校	20:00	
9:00		21:00	国家試験等の勉強
10:00	臨床実習	22:00	
11:00		23:00	自由時間
12:00	昼休み・昼食	24:00	
13:00		1:00	
14:00		2:00	睡眠
15:00	臨床実習	3:00	
16:00		4:00	
17:00		5:00	

【時間割】6年次後期

実習

	1 限目	2 限目	3 限目	4 限目	5 限目	6 限目
月	臨床実習					
火	臨床実習					
水	臨床実習					
木	臨床実習					
金	臨床実習					
土	臨床実習 (毎月第三土曜日は、 病院実習総論講義を実施)					

高度医療施設や先端の教育・研究施設を擁した 理想的な学舎「河田町キャンパス」



教育・研究棟

医局・カンファレンス室・教授室から成る教育・研究棟。
(MAP①)

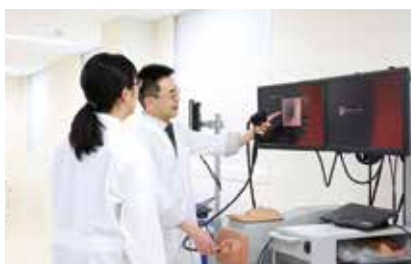


弥生記念講堂

入学式や卒業式、白衣授与式などのほか、吉岡彌生記念講演会をはじめとする各種講演会やセミナーなどが行われます。(MAP②)

統合教育学修センター(スキルスラボ)

基本的な診療技術やシミュレータを使用した医療
技能などが学べます。
(MAP⑬ 巴女子学生会館 1 階)



総合外来センター (MAP①)



第1病棟 (MAP②)

本学のキャンパス内には、最新設備の医療機器や設備が完備された東京女子医科大学病院や、早稲田大学との共同利用施設である先端生命医科学センター (TWIns) などさまざまな教育・研究施設が整備されており、医学の道をめざす学生たちが専門的な知識や実践力を身につけるのに理想的な環境を呈しています。



- | | | | |
|----------------|--------------|-----------------------|-----------|
| ① 総合外来センター | ⑥ 糖尿病センター | ⑪ 教育・研究棟 | ⑭ 巴女子学生会館 |
| ② 第1病棟 | ⑦ 弥生記念講堂 | ⑫ 中央病棟 | ⑮ 巴研究教育棟 |
| ③ 日本心臓血管研究所研究部 | ⑧ 南館・東洋医学研究所 | ⑬ 東病棟 | |
| ④ 西病棟A | ⑨ 第3別館 | ⑭ 先端生命医科学センター (TWIns) | |
| ⑤ 西病棟B | ⑩ 彌生記念教育棟 | ⑯ 本部・総合研究棟 | |



巴女子学生会館

統合教育学修センター (スキルスラボ)、学生自修室、クラブ・同好会の部室などがある建物です。(MAP ⑮)

学生健康管理室

学生たちの健康診断や健康相談への対応をはじめ健康管理、各種証明書の発行、メンタルカウンセリングなどを行い、健康的で快適な学生生活を送れるようサポートしています。

(MAP ⑮ 巴女子学生会館 1 階)

図書館

豊富な蔵書と
さまざまな学修の場を備え
教育・研究・学修・診療を
支える



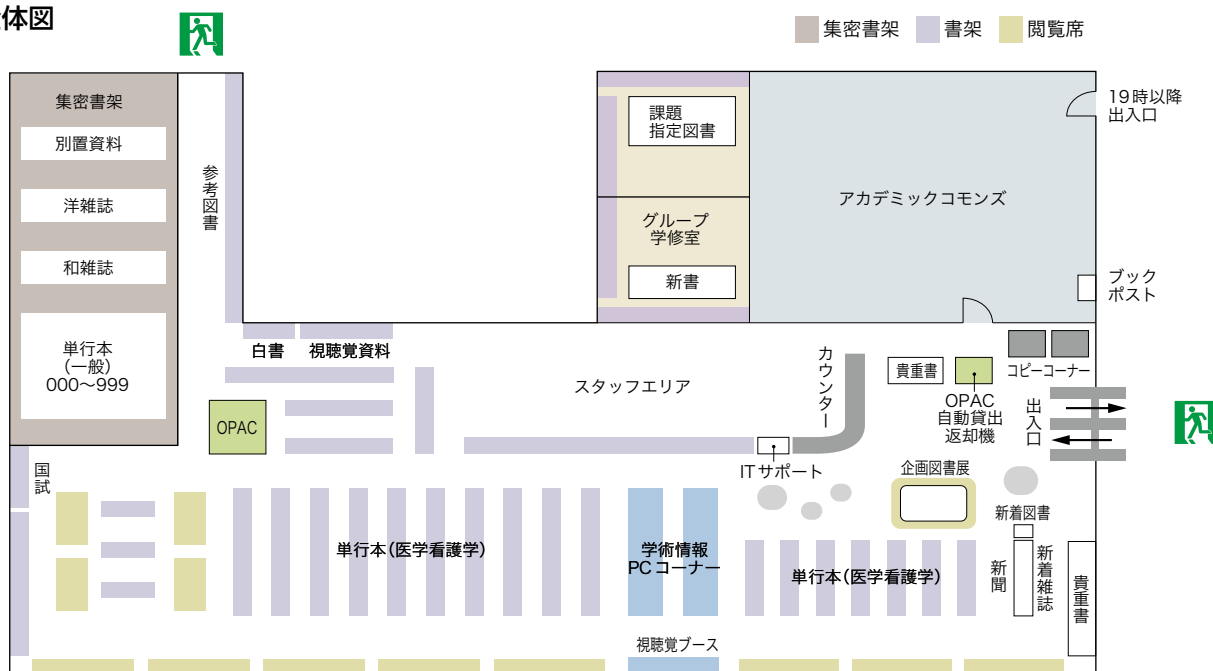
東京女子医科大学図書館は、図書館、メディアラボ、大学史料室、学会室から構成されており、「ライブラリー」「メディアラボ」「ミュージアム」の3つの側面から教育・研究・学修・診療を支援する大学図書館として機能しています。

施設面では、2020年に新校舎に移転し、静かな空間「閲覧室」と授業等でディスカッションの場として使われる「アカデミックコモンズ」「グループ学修室」を備えた学修の場として活用されています。蔵書約14万冊を有し、そのほかに電子ジャーナル、電子ブックや、国内外のevidence-based medicineのツールなどの電

子資料を揃え、積極的に活用されています。電子資料は館内備付のPCで利用できるほか、自分のモバイル端末を教育用無線LANにつなぐことで校舎内のどこからでも利用することができます。資料の多くは自宅からも利用可能です。

足立医療センター図書室と看護専門学校図書室を統合した足立図書室、八千代医療センター図書室も臨床実習時などに利用ことができ、各図書室の所蔵資料は随時取り寄せることも可能です。

■全体図





出入口



閲覧室



グループ学修室

図書館概要

面積 (m ²)	座席数
1272.59	220

蔵書数	和書	洋書	合計
図書	77,045	9,135	86,180
雑誌	23,272	29,801	53,073
視聴覚資料			1,084
電子ジャーナル	130	13,798	13,928

2025.3.31 現在



アカデミックcommons

キャンパスは歴史と豊かな緑に包まれた安らぎある空間を備えます。静かに学びを深められる図書館。クラスメートや先生、看護学部生とのコミュニケーションに利用できるカフェテリア。本学の創立者である吉岡彌生に関する写真と資料を収集、展示している吉岡彌生記念室もあります。



教室



吉岡彌生記念室



PC室



屋上テラス



カフェテリア



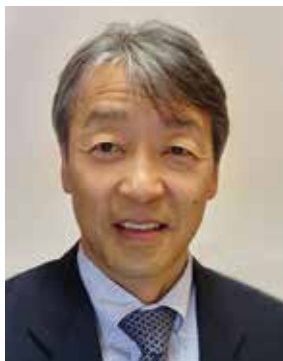
チュートリアル室

研修医として医療人の第一歩を踏む

本学部卒業後は、初期臨床研修医として医療人の第一歩を踏み出すことになります。東京女子医科大学病院では卒業臨床研修センターを設け、研修医のキャリア形成を支援しています。

卒後臨床研修センター

新しい女子医大病院は、働く人を大切にすることを重視した改革を進めています。



センター長 本田 五郎

働く人を“大切にする”というのは“優しくする”ということではなく、“しっかりと育てる”という意味です。前体制下での女子医大病院では人を育てるという思考が失われていました。2024年度中に新体制に変わり、今、様々な部署で人を育てる方策が見直されています。初期臨床研修センターにおいても、各科の中堅医師たちが集まって研修プログラムの見直しを進めています。様々な理由により、厚生労働省や東京都の施策により女子医大病院の初期臨床研修医募集定員数は24名に絞られましたが、これは研修を受ける皆さんにとってはむしろ濃密な指導を受けられる好機だと思います。女子医大病院は、臓器・疾患群別センター制の施設・組織構成(心臓病センターや消化器病センターなど)を特色の一つとしていますので、臓器・疾患群別に内科と外科が融合した組織の中で、診断から治療まで一貫性のある知識とスキルを身に着けた専門医を育成する組織風土を有しています。そのため、志が高ければ高いほど、このような専門性の高い研修を受けやすい環境の中で、初期臨床研修期間中から特定の専門医を目指した研修を受けることができます。ハイレベルな専門医・総合診療医を目指した研修に没頭したい人材を募集しています。

研修プログラム

■基本コース

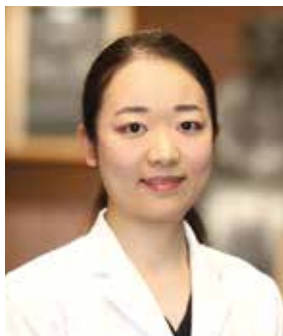
1年次に研修したい診療科と研修時期(3か月)を選択することができます。将来の専門領域を見据えて自由に診療科を選択できるのが大きな特徴です。

■専門コース

将来の方向性がある程度決めている人には、それぞれの領域の専門医をめざすのに役立つようなプログラムになっています。



研修医からのメッセージ



初期臨床研修医 香森 南玲

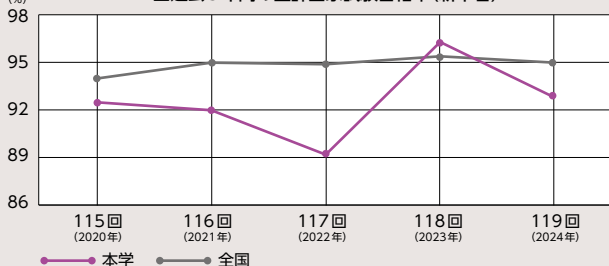
私が女子医大病院を初期研修先として選んだのは、臨床と研究の両面からです。臨床実習を通して多くの尊敬できる指導医の先生方と出会った事に加え、3年次の研究プロジェクトをきっかけに始めたTWInsでの再生医療の研究を行う為に迷わず当院の基礎研究医コースを選択しました。学内にロールモデルとなる女性医師の先生方が多くいらっしゃるのも女子医大ならではの点です。本学の臨床実習は毎年改良されており、年々実臨床に近くなっていますが、医師に立場が変わる事でその責任や関わる内容の広さ・深さは全く異なる事を実感した1年でした。入職当初は処方や検査のオーダー、転院調整、当直、救急外来の対応など初めての経験に四苦八苦しましたが、1学年上の先輩を始めとする先生方に丁寧に教えて頂き、コメディカルの方々にもサポートして頂きながら少しずつ慣れていく事が出来ました。同期の人数も25人と適度で、困った事をまず相談出来る存在です。辛くなる時もありますが、学生時代よりもやりがいを感じる充実した日々を送っています。

これから医師になろうと考えている皆様が、女子医大病院で医師としての一歩を歩き始められます事を、心よりお待ちしております。

医師国家試験合格をサポート

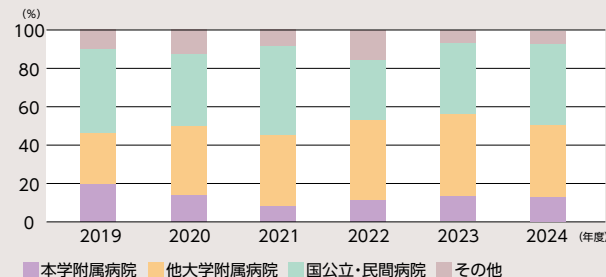
本学部は医師国家試験に向けて毎年、専門の講師を招いて対策講座や補講を実施しています。また、学生1人ひとりと面接をするなど手厚いサポートを行っており、医師国家試験合格へと導いています。

■過去5年間の医師国家試験合格率(新卒者)



卒業生の進路状況

本学部卒業後は、ほとんどの卒業生が初期臨床研修医として病院に勤めることになります。2024年度の卒業生は、12.6%が本学附属病院、37.8%が他大学附属病院、42.3%が国公立・民間病院へ進みました。



第一線で活躍している医学部卒業生

女子医大という「環境」が作ってくれた自分

東京女子医科大学統合教育学修センター 基礎教育学教授

西井 明子



私は平成6年に本学を卒業しました。それまで共学校で学んできたので、入学当時は女子だけの環境に戸惑うこともありました。女性が働くことはいまや普通のこととなりましたが、昨年のジェンダーギャップランキング指数では、日本は118位で、先進7か国の中では最下位でした。仕事を続けるだけでなく、リーダーになる女性を輩出するには、ジェンダーを意識しない環境が必要です。まさに女子医大がその環境を提供してくれたのだと知ったのは、卒後10年以上が経ってからでした。私は医学部で生理学に興味を持ち、卒業後に入局した循環器内科で、不整脈の病態を解明し治療につなげるために大学院で細胞電気生理学を学びました。その後も基礎研究を継続し、臨床で生きていくか、研究で生きていくか、大学か、地域医療かなど多くの迷いがありました。女性としてのライフイベントで、キャリアの継続を諦めかけたこともありましたが。その時に何人もの先輩に相談し、女性医師・研究者を支援する大学のシステムを教えて頂くなど、様々なアドバイスを頂いたことが、今の私を作ったと思います。現在、大学に残り、統合教育学修センター長として教育と学内の行事支援を行う傍ら、4月からは女性医師キャリア形成センターの女性リーダー育成部門長を拝命致しました。臨床も、研究も続けています。いろいろな場所で活躍している同級生の存在も、とても励みになっています。好きなことは諦めなくていいと教えてくれた母校で、医師への希望を胸に入学してくる皆さんをお待ちしています。

女子医大からの応援のエール

東京女子医科大学教務委員長、国際コミュニケーション教育委員長、麻酔科学分野 基幹分野長・教授

東京女子医科大学病院 手術室室長・麻酔科診療部長

長坂 安子



私は平成6年(1994年)に東京女子医科大学を卒業し、聖路加国際病院で内科と麻酔科の研修を行いました。その後結婚と出産を経験し、2児に恵まれ、米国留学ののちに、今こうして母校に戻り、教壇にたつ幸を与えられています。学生時代に、熱意ある優れた教師陣から学び、重症な患者さんをたくさん経験し、同じ志をもって助け合う同輩らと出会えたことは、医師としての一生の宝となりました。

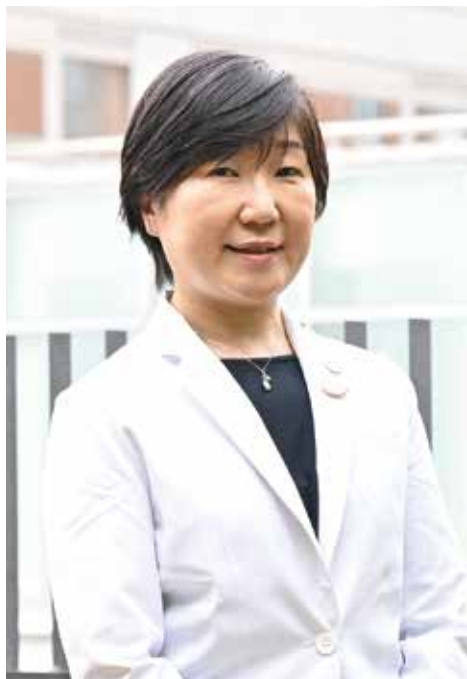
東京女子医科大学では、創立125周年の今、教学一丸となって医学教育を拡充しています。実践に強い医師を育成するために、シミュレーション学を積極的に取り入れた体験型実践教育を実施し、国際社会に貢献する医師になるための支援プログラムを通して、みなさんが日本と世界の架け橋となる道を整えています。

今、私たちの環境は間違いなく変わりつつあります。これまでの医師が手作業で行っていたことがAIに移管され、多職種連携によるタスクシェア・タスクシフトが実現しています。医師は今後、より難易度の高い、高リスクの診療統括責任者となって、深い知識と実力を兼ね備えた存在としての個々の実力が問われることになります。だからこそ、本学で切磋琢磨しつつ卓越した技術と深い医学知識を培おうではありませんか。

将来、女性医師としての悩みや挫折を味わうことでしょう。その時こそ、先輩たちが歩いてきた姿に自分を重ね合わせ、決して医師として精進する道を諦めることなく、情熱を患者のために注ぐ仲間と啓蒙し合える環境が必要なのです。東京女子医科大学は、頑張っているみなさんの人生の伴走者になって、輝ける未来に向けてフレーフレーフレーと応援しつづけています。

結婚や出産などのライフイベントを経験しながらも 呼吸器外科医として研鑽を積むことができました

東京女子医科大学 統合教育学修センター 基礎教育学 准教授 松本 卓子



私は平成8(1996)年に本学を卒業しました。現在は呼吸器外科医として診療に携わりながら統合教育学修センター基礎教育学に籍をおき、臨床実習コーディネーターとして、学生が臨床実習を通して深い学びを得られるようお手伝いをしています。学生時代はワンダーフォーゲル部に所属し、先輩や同級生・後輩たちと寝食を共にする中でコミュニケーションの大切さ、チームワークを学び、今に生きる貴重な人間関係を築くことができました。卒業し呼吸器外科医を目指すにあたっては、女性のロールモデルが沢山いて症例数も豊富な女子医大に就職しました。入局後、結婚や出産などのライフイベントを経験しましたが、適切な配慮を受けながら呼吸器外科医としてしっかり研鑽を積むことができました。最近では所属する学会の委員会にて全国の呼吸器外科女性医師の問題に向き合うようになりましたが、女性が責任ある立場で活躍している大学はまだまだ少ないこと、あらゆる分野・学会のgender equalityに関する取り組みで多くの本学卒業生が中心的役割を担っていることを知りました。自分が目指した道であっても、時には辛いこと、ネガティブな気持ちになることがあります。また専門領域の変更、開業など、キャリアや人生の転機を迎える人もいます。そんな時、女子医大にはあらゆるロールモデルが存在し、医局や学年の垣根を越えて力になってくれます。女子学生の夢・キャリアの第一歩を安心して踏み出せる環境が女子医大には整っています。

「やりたいこと」を貫き通すロールモデルが大勢いるほか 卒業後もキャリア形成のサポートが得られます

東京女子医科大学 解剖学(神経分子形態学分野) 准教授 本多 祥子



私は平成4年に本学を卒業しました。母は東京女子医専を卒業し、開業医として生涯をかけて地域医療に貢献した人でした。外科医であった父も、母をサポートしながら私を育ててくれました。私自身が母と同じ女子医大を選んだ理由として、母の同級生や先輩後輩の繋がりがとても強いと感じたこと、医療に繋がる研究がしたかったこと、さらに、もし臨床医になるとしたら外科系に進みたかったことがあります。本学では外科系を含む様々な科、また医学研究の分野でも、多くの女性医師・研究者が活躍しています。この「女子医大ならではの」環境に魅力を感じて飛び込み、卒後は脳を中心とした解剖学の研究活動と教育に従事しています。解剖実習を通じて毎年多くの学生の皆さんと関わり、先輩として接するうちに、女子医大に学ぶ者ならではの深い心の繋がりのようなものを感じるようになりました。みな学生時代は「医師になったら本気でやりたいこと」を探し求め、絶対実現するという気概を持って卒業していきます。そして生涯かけて「やりたいこと」を貫く卒業生を、同級生や先輩がいつでも心から応援しています。女子医大には「やりたいこと」を貫き通す大勢のロールモデルがいますし、学内の女性医療人キャリア形成センターは様々な側面からサポートしてくれます。私自身は平成30年からこのセンターのダイバーシティ研究環境整備事業推進室長としても活動しています。女性医師・研究者を目指す皆様、一緒に「やりたいこと」を実現していきましょう。

在学生と卒業生による同窓会である 一般社団法人至誠会

東京女子医科大学医学部の同窓会組織である一般社団法人至誠会は1910年初代会長の吉岡彌生先生のもとで発足しました。卒業生の総数は1万人を超え、令和7年3月末の正会員数は4,447人です。全国の都道府県に支部組織があり、それぞれの地域で年齢を超えた交流があります。新しく入学された皆様には、準会員として女医界雑誌やニュースレターなどを送付しております。会員対象の研修会なども企画していますので、ぜひご参加ください。学生さんとのつながりとしては、東医体や学園祭などに補助金をお渡し、成績優秀者には卒業式に至誠会賞を、また卒業生には記念品を贈らせていただいています。卒業後も各種研究助成、留学助成などで研究のお手伝いをいたしております。卒業生の同窓会として病院を経営し、至誠会第二病院として女性医師の働きやすい職場を作っています。また、看護専門学校も経営して看護職の育成に努めています。至誠会事務局の建物は大学の近くにあり、卒業生の理事達で母校の発展を願い、応援したいと思っております。

一般社団法人至誠会 代表理事

齋藤 麗子 (第12代会長)



齋藤会長ご挨拶



至誠会第二病院（世田谷区上祖師谷）

専門分野の研究を深め 医学領域における指導者をめざす

本学には、6つの専攻から成る大学院医学研究科(博士(医学)課程)と、早稲田大学との連携による我が国初の共同大学院として共同先端生命医科学専攻が設置されています。

医学研究科(博士(医学)課程)

医学研究科(博士(医学)課程)には形態学系、機能学系、社会医学系、内科系、外科系、先端生命医科学系の6つの専攻があります。いずれも4年制で、それぞれの専攻課程の研究を深め、医学領域の研究・診療・教育・行政における指導者の育成をめざします。所定の単位を修得し、学位論文の審査と最終試験に合格した人には博士(医学)Ph.D.の学位が授与されます。



専 攻	研究分野・内容
形態学系	●神経分子形態学 ●顕微解剖学・形態形成学 ●人体病理学・病態神経科学
機能学系	●神経生理学 ●生化学 ●薬理学 ●微生物学免疫学
社会医学系	●公衆衛生学 ●法医学
内科系	●呼吸器内科学 ●内分泌内科学 ●糖尿病・代謝内科学 ●腎臓内科学 ●液性病態制御内科学 ●循環器内科学 ●消化器内科学 ●脳神経内科学 ●血液内科学 ●膠原病リウマチ内科学 ●総合診療・総合内科学 ●精神医学 ●小児科学 ●皮膚科学 ●放射線腫瘍学 ●画像診断学・核医学 ●病理診断学 ●リハビリテーション科学
外科系	●呼吸器外科学 ●内分泌外科学 ●乳腺外科学 ●心臓血管外科学 ●肝・胆・膵外科学 ●消化管外科学 ●脳神経外科学 ●整形外科 ●形成外科学 ●眼科学 ●耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 ●婦人科学 ●産科学 ●麻酔科学 ●泌尿器科学 ●顎口腔外科学 ●口腔顎顔面外科学 ●救急医学
先端生命医科学系	●先端工学外科学 ●遺伝子医学 ●未来共創ライフサイエンス ●再生医工学 ●統合医科学 ●疾患モデル研究

共同先端生命医科学専攻

早稲田大学と本学との連携によって2010年に開設された共同先端生命医科学専攻は3年制で、自然科学の基礎と人間科学を含む人文社会科学の融合領域である医療レギュラトリーサイエンスに関連した研究を行うとともに、先端医療機器や医用材料、再生医療やゲノム医療などの開発・実用化において指導的な役割を担う人材の養成をめざします。所定の審査に合格した人には博士(生命医科学)の学位が授与されます。

専 攻	研究分野・内容
共同先端生命医科学	●先端医療機器研究部門(先端治療機器設計・開発評価、先端治療機器臨床応用・開発評価、循環器医工学) ●創薬・再生医療研究部門(組織再生医療、分子細胞医療、ナノ医療工学)

各種奨学金制度で学生の修学をサポート

学ぶ意欲があり、経済的な支援を必要とする学生のために、さまざまな奨学金制度や教育ローンを設けて修学をサポートしています。従来の奨学金制度に加え、一般選抜合格者向けに特待生制度も設置しています。

■特待生制度

一般選抜合格者の成績上位5人を特待生とし、学資負担者の年収に関係なく、授業料(年間280万円)を継続的に4学年まで給付します。ただし、入学後の学業が31位以下の場合には給付を打ち切ります。

■各種奨学金制度

(令和7年度募集実績)

種 類	資 格	奨 学 金 額	貸与・給与期間	備 考
東京女子医科大学 特別奨学生	●在学中に学資負担者の死亡、失業、破産、災害、事故等により家計が急変し、学費の納入がとくに困難であること ●学業成績が良好であること ●心身ともに健康であること ●卒業後、返還期間中は本学附属医療施設に勤務することを希望する者	<貸与> 授業料および実習費相当額またはその一部	1年 ただし審査によって更新することができる	4月19日締切 (2年生以上)
独立行政法人 日本学生支援機構	●学資の支弁が困難と認められる者 ●学修に意欲があり、学業を確実に修了できる見込みがあること	<貸与> ●第1種(無利子) 自 宅 54,000円(最大月額) 自宅外 64,000円(最大月額) ●第2種(有利子) 月 額 20,000円～ 120,000円 (1万円単位の金額の中から選択) ※希望により160,000円まで増額可能(最大月額)	標準修業年限	全学年対象
公益財団法人 颯田医学奨学金	●学資の支弁が困難と認められる者 ●学業・人物ともに優れ、かつ健康であること	<給与> 月 額 30,000円	給与開始の年月から卒業または修了予定の最 短年月日	4年生対象
公益財団法人 小林育英会	●学資の支弁が困難と認められる者 ●学業・人物ともに優れ、かつ健康であること	<給与> 月 額 25,000円	給与開始の年月から卒業または修了予定の最 短年月日	1年生対象
一般財団法人 楠田育英会	●学資の支弁が困難と認められる者 ●学業・人物ともに優秀かつ健康であること	<給与> 月 額 30,000円	給与開始の年月から卒業または修了予定の最 短年月日	4年生以上対象

上記のほかに、給付・貸与共に各種奨学金を募集しています。

■教育ローン

信販会社と提携し、一般的教育ローンより有利な条件になっています。奨学金制度とは異なり、学納金が直接、大学に振り込まれます。

■学費・納入金

2025(令和7)年度

種 別	入学時	2学年以降の納入金
入学金	2,000,000円	—
授業料(年額)	2,800,000円	2,800,000円
施設設備費	2,000,000円	2,000,000円
実習費(年額)	1,200,000円	1,208,000円
教育充実費(年額)	3,300,000円	800,000円
委託徴収金	149,000円	145,000円
合計	11,449,000円	6,953,000円



東京女子医科大学病院を核に 多彩な医療施設を展開

本学は、キャンパス内にある東京女子医科大学病院をはじめ、足立医療センター（東京都足立区）、八千代医療センター（千葉県八千代市）など多彩な医療施設を有しており、学生たちにさまざまな臨床実習の場を提供していることが大きな特徴となっています。

東京女子医科大学病院 東京都新宿区

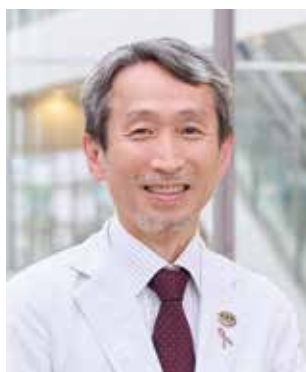
東京女子医科大学病院は、建学の精神「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する」のもと、1908年の開院以来、質の高い安全な医療の提供と、次代を担う医療人の育成に努めてきました。

東京女子医科大学の理念は「至誠と愛」（きわめて誠実であること、慈しむ心（愛））であり、教育・研究・診療の総ての場において求められるものです。本学の理念に従って附属病院も運営され、その伝統は先人から脈々と引き継がれ現在に至っています。

当院では、最新の内科治療のほか、手術件数は年間約8,000件であり、低侵襲手術やロボットを用いた手術件数も多く高度な医療を提供しています。高度で適切な治療を提供するために約50の診療科があります。

職種を超えてすべての職員が一丸となり、患者さんとご家族とともに、高水準の医療安全と最新の医療を追求し、患者さん一人ひとりに最善の医療を実践することを目指しています。

また、東京女子医科大学病院は、医学生、看護学生、研修医を教育・育成する病院でもあります。ご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



病院長 西村 勝治



中央病棟



第1病棟



総合外来センター

足立医療センター 東京都足立区

当院は1934年に荒川区に開院以来、90年以上の歴史をもつ本学附属施設です。2022年に足立区江北に新築移転し、附属足立医療センター(病床数450床)と改称しました。東京都二次保険医療圏の区東北部(足立・荒川・葛飾区)で唯一の3次救命救急センターを有する地域災害拠点中核病院、そして東京都認定の地域医療支援病院として区東北部医療圏を中心とする地域医療に貢献しています。また、高度急性期病院の機能として屋上ヘリポート、救急ハイブリッドER(IVR-CT)などの最新設備と、多くの専門性の高いユニット系病床(ICU, HCU, SCU, NICU, GCU, MFICU)を配備し重症患者の管理体制も整えています。さらに全室個室の初期研修医寮を病院に併設しており、研修に専念できる体制も完備しています。



病院長 塩沢 俊一



新病院外観

八千代医療センター 千葉県八千代市

2006年に開設されて、2016年には病床拡張し現在500床の病院となっています。近年では救急搬送対応ヘリポート、SCU、がん関連病棟も併設しました。当センターは千葉東葛南部および八千代市の中核病院としての広域性・公益性を担いながら地域包括・完結型医療を展開し、大学附属病院としての先進医療も進めています。また、設立時より地域からの要望が強かった救急医療、小児・周産期医療を病院の軸としています。病院実習、卒後教育においてもこのような地域特性が反映されたプログラムを提供しています。



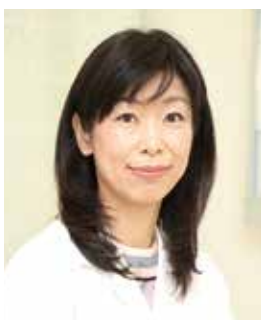
病院長 片桐 聡



八千代医療センター 遠景

東洋医学研究所 東京都新宿区

東洋医学研究所は、2025年で開設33年目になりました。保険診療の漢方部門と自費診療の鍼灸部門があり、昨年度は約31,000人の患者さんが来院されました。東洋医学の独自の診察方法を用いることで、慢性疾患を抱える患者さんの症状緩和や生活の質向上、さらに健康増進や加齢に伴う症状の改善に貢献しています。東洋医学の教育は本学医学部のカリキュラムに取り入れられており、学生や医師の教育機関としての役割も担っています。



教授 木村 容子



研究所外観

再生医療など最新の研究を推進

本学は、先端生命医科学センター(TWIns)をはじめ総合医科学研究所、実験動物研究所など充実した研究施設を擁し、医療の基礎的研究から最新医療の創造まで幅広い研究に取り組んでいます。

先端生命医科学センター(TWIns)

Tokyo Women's Medical University-Waseda University Joint Institution for Advanced Biomedical Sciences

本学と早稲田大学との医工融合研究教育拠点として2008年にオープンしたのが先端生命医科学センター、通称「TWIns(ツインズ)」です。2つの大学の研究者・学生と企業が自由に交流し、共同研究を行う環境にあるのがTWInsの最大の特長です。



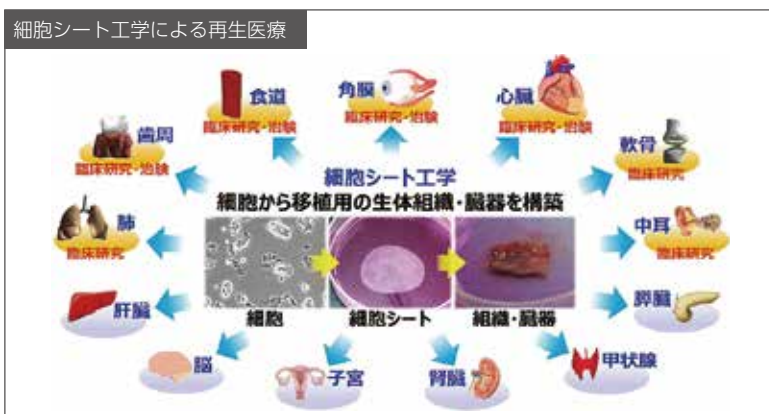
■先端生命医科学研究所 Institute of Advanced Biomedical Engineering and Science

先端生命医科学研究所では、1969年の創設以来築かれてきた医理工学・産学融合体制のもと、医師と研究者が一体となって、未来の患者様を治すべく、基礎研究から臨床応用さらには産業化に至るまでのあらゆる階層において、新しい医療技術の研究開発に取り組んでいます。また同時に、未来の医療を担う分野を超えた融合型の新しい医師・研究者の育成にも尽力しています。術中に腫瘍の位置情報を知らせるリアルタイムナビゲーションシステムや、あらゆる医療機器が接続し情報が集約・可視化されるスマート治療室(SCOT®)、手術ロ

ボット等の手術支援技術の研究開発を進めており、従来の外科医の目と手と脳を超越するハイクオリティな治療の実現を目指しています。また生体で細胞から組織を構築する独自の技術「細胞シート工学」を基盤とした研究開発を進めております。これまでに様々な臨床医学領域において世界初・日本発の再生医療を実現しています。さらに今後想定される食糧難を解決すべく、省スペース・低環境負荷・持続可能な新しい細胞培養技術と組織工学的技術を駆使した「細胞性食品」を創るイノベーションにも取り組んでいます。



スマート治療室(SCOT®)



巴研究教育棟

巴研究教育棟は、実験や研究を主に行う専門施設として、彌生記念教育棟と並行して建設されました。



総合医科学研究所と実験動物研究所がある巴研究教育棟

総合医科学研究所

最新設備の機器を駆使して幅広い研究を展開 基礎と臨床をつなぐ“橋渡しの研究”を推進

総合医科学研究所は、総合研究所と統合医科学研究所が統合して、2022年にできました。それぞれの研究所の業務を統合しつつ引き継いでいます。

共同利用施設では多くの機器を整備して学内の幅広い研究を支援しています。インテリジェント透過型電子顕微鏡や小動物用・高性能コンパクトMRIシステム、共焦点レーザー顕微鏡、高速セルソーター、遺伝子解析装置、細胞観察装置などを備え、基礎・臨床の研究者に日々利用されています。共同利用施設は河田町キャンパスのほか、足立医療センターと八千代医療センターにも分室が開設されています。研究部門では基礎医学研究と臨床医学研究を有機的に統合し、疾患の分子メカニズム解析とそれに裏付けられた疾患の予防・診断・治療法などの開発を推進しています。がんや生活習慣病、先天性疾患などさまざまな難病の原因究明に取り組み、学内外の基礎・臨床



総合医科学研究所の中央実験室。学内の研究者が自由に利用できる実験スペースも提供しています。



最新の共焦点レーザー顕微鏡[LSM-900 Airyscan2]。様々な蛍光標識色素に対応し、従来よりも高感度な観察が可能になりました。Airyscan2とデコンボリューションによる超解像イメージングを実現します。

各科との共同研究を行いながら、基礎と臨床の垣根を取り去った“橋渡しの研究”を推進しています。次世代シーケンサーや解析コンピューター環境を有しており、ゲノム解析受託サービスも行っています。
(<https://soken.twmu.ac.jp>)

実験動物研究所 (Institute of Laboratory Animals)

実験動物の飼育・管理と遺伝子組換えマウスの作製

医学・生命科学研究において、疾患の病態生理を解明し、その結果を新規治療法の開発に役立てるためには、動物個体を用いた実験が必要となります。実験動物研究所は、本学における教育と研究に必要な実験動物の管理と、円滑な動物実験の遂行を目的に設けられた共同利用施設です。この研究所には、(1)教育研究、(2)飼育管理、(3)動物供給、(4)情報収集の4つの業務部門が置かれており、飼育されている動物種はマウス、ラット、ウサギ、モルモット等で、得られた研究成果は国内外の学術誌に発表されています。

2020年に巴研究教育棟において新施設が設置され、学内に散在していた動物飼養施設・実験室が中央化されて一括管理となりました。稼働に際して全ての遺伝子改変マウスは体外受精と受精卵凍結を行

いクリーンな状態で搬入し、その結果開設以来全ての小動物飼育室はICLAS(International Council for Laboratory Animal Science)モニタリングセンターの通常動物コアセットの全ての項目が陰性であり、SPF(specific pathogen free)の状態を維持しています。

本研究所では、動物の飼育・管理と並行して、学内・学外の様々な大学・研究所からの依頼を受けて、ゲノム編集を用いた遺伝子組換えマウスの作製、および体外受精、受精卵凍結、凍結受精卵の融解、移植、帝王切開などの胚操作サービスを行っています。

(HPの学内URL:http://houjin.int.twmu.ac.jp/intra/jikken_dobutsu/、学外URL:<https://www.twmu.ac.jp/ILA/>)。



実験動物研究所のマウス飼育室。全ての飼育室で温度および湿度は自動管理によるデジタル表示となっており、ラックには自動給水装置が設置されている。



発生工芸室の遺伝子改変マウス作製機器。マイクロインジェクター、倒立顕微鏡、3次元ジョイスティック、フェムトジェットなどから構成されている。



遺伝子改変マウスを作製する目的で、顕微鏡下でマウス受精卵前核にガラス針を用いてcrRNA、tracrRNA、Cas9、ss ODN(single strand oligo donor nucleotide)を注入しているインジェクション写真。

入学者選抜には学校推薦型選抜(一般推薦)、 一般選抜の2種類があります

本学部の入学者選抜には、学校推薦型選抜(一般推薦)、一般選抜の2種類があります。
7、8、9月には個別相談会・オープンキャンパスを開催予定です。

- ※インターネット出願となります。
- ※出願書類はすべて郵送にて受け付けています。本学窓口での受け付けは原則として行っていません。
- ※出願資格などについては本学のホームページをご覧ください。

入学者選抜概要

学校推薦型選抜(一般推薦)

募集人員	約38名
出願期間	令和7年11月1日(土)～11月11日(火)(必着) ※検定料支払い期限:～令和7年11月9日(日)
試験日	令和7年11月22日(土)、23日(日・祝)
試験会場	本学医学部
試験科目	●思考力試験(文章、データなどを示して読解、 分析、判断の能力を評価する) ●小論文 ●受験生による小グループ討論 ●面接
合格発表日	令和7年12月4日(木)
入学検定料	60,000円

一般選抜

募集人員	約72名
出願期間	令和7年12月22日(月)～令和8年1月16日(金)(必着) ※検定料支払い期限:～令和8年1月14日(水)
試験日	【第1次】令和8年2月1日(日) 【第2次】令和8年2月14日(土)または2月15日(日)※ ※いずれか1日(希望日の選択も可能)
試験会場	【第1次】京王プラザホテル東京 【第2次】本学医学部
試験科目	【第1次】 ●英語:英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ ●数学:数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・数学A(図形の性質、場合 の数と確率)、数学B(数列)、数学C(ベクトル、 平面上の曲線と複素数平面) ●理科:「物理」物理基礎・物理 「化学」化学基礎・化学 「生物」生物基礎・生物 ※物理・化学・生物のうちから2科目選択。 ●適性試験 ●小論文 ※評価は第1次試験合格者選抜には使用せず、第2次試験 合格者選抜のときに使用します。 【第2次】 ●面接 ※第1次試験合格者に対して実施します。
合格発表日	【第1次】令和8年2月7日(土) 【第2次】令和8年2月20日(金)
入学検定料	60,000円

入試個別相談会・オープンキャンパス

本学の理念、建学の精神、学生生活、教育、入学試験などについての説明会・相談会を行います。
最新の情報については、本学ホームページをご確認ください。



令和7年度 入学者選抜結果

募集人数：110名(うち43名は推薦入学) 入学者数：110名(うち43名は推薦入学) 倍率：一般選抜12.7倍 推薦(一般)1.9倍 (人)

	入試種別	合計	現役	一浪	二浪	三浪	四浪以上	大卒(短大)	高卒認定
志願者	一般選抜	1068	340	319	165	76	109	50	9
	推薦(一般)	62	44	18					
	推薦(卒業生子女)	13	10	3					
第1次受験者	一般選抜	1013	327	308	155	72	95	48	8
	推薦(一般)	62	44	18					
	推薦(卒業生子女)	13	10	3					
第1次合格者	一般選抜	333	84	106	64	33	26	19	1
第2次受験者	一般選抜	296	75	92	55	31	26	16	1
合格者	一般選抜	84	25	26	17	5	4	7	
	(一般(特待))	(5)	(2)	(1)	(1)			(1)	
	推薦(一般)	33	28	5					
	推薦(卒業生子女)	10	9	1					
補欠者	一般	138	31	45	22	19	15	5	1
補欠合格者	一般	補欠順位36位まで(うち19名入学)							
入学者	一般選抜	67	18	15	15	6	8	5	
	(一般(特待))	(3)	(1)		(1)			(1)	
	推薦(一般)	33	28	5					
	推薦(卒業生子女)	10	9	1					
	入学者合計	110	55	21	15	6	8	5	

※一般(特待)は、一般の中に含む

一般選抜第1次試験の試験時間と配点

最高点：310点

入学者の最高点：266点 入学者の最低点：203点

	数学	英語	物理	化学	生物	適性 小論文試験
時間(分)	60	60	120(3科目のうち2科目選択)			60
配点	100	100	200			—

令和7年度 入学者の出身地別人数

(人)

北海道	4	中国	2
東北	2	四国	2
関東	83	九州	3
中部	6	沖縄	1
近畿	6	その他	1

ストレート卒業率(6年間で卒業できる率)

2023年3月のストレート卒業率は、私立大学平均が82.0%であるのに対し、本学では93.0%でした。(私立第3位)

この数値は、いかに留年生が少ないかを表しております。

よくある質問

1 学校推薦型選抜は併願が可能ですでしょうか？

本学を第一志望(専願)でお願いします。

2 学校推薦型選抜の思考力試験はどのようなものですか？

文章、データなどを示して読解、分析、判断の能力を評価する試験です。

3 学校推薦型選抜で不合格だった場合、一般選抜を受験することはできますか？

受験することは可能です。新たに受験手続きをとってください。

4 選択科目によって有利・不利はありますか？

有利・不利はありませんので、得意科目で受験することをおすすめします。

5 現役・浪人の有利・不利はありますか？

有利・不利はありません。同一基準で公平に選考されます。

6 合格の基準点や足切り点がありますか？

合格の基準点も足切り点もありません。総合点で評価します。

7 合格発表はどのように行われますか？

ホームページに掲載します。

8 繰上げ合格者の発表はどのように行われますか？

欠員が生じた場合に、繰上げ合格者本人または保護者宛に電話連絡します。

9 入学手続きはどのようになっていますか？

合格者は入学に必要な費用を所定の期日までに納入していただくことになります。

10 過去の入試問題はどのようにすれば入手できますか？

書店で過去問題集(赤本、教学社発行)を購入ください。

魅力あふれる新宿を中心とした、充実したオフタイム

東京女子医科大学が立地する新宿は三大副都心の一つで、いつもたくさんの人々にぎわっています。新宿駅周辺には高層ビルが建ち並び、一大ショッピングエリアを形成。大学から少し足を延ばせば、風情ある通りや多くの文化施設、流行の発信地など、魅力ある場所が数多くあります。オシャレで魅力あふれる街・新宿を中心に、充実したオフタイムを約束してくれます。

西新宿

都庁をはじめ高層ビル群が立ち並び西新宿エリアはオフィス街のイメージが強いですが、緑に恵まれたスポットでもあります。近代的な建築物と豊かな緑が織りなす空間で散歩をしたり、お洒落なカフェで食事を楽しむこともできます。



新宿駅南口

新宿南改札付近は各路線のターミナルであり、巨大なショッピングエリアが広がっています。買い物やお食事には事欠かないエリアで、多くの有名店やブランド店が軒を列ねています。



渋谷

ファッション、カルチャーの発信地でもある渋谷。IT、クリエイティブ産業の関連施設なども加え、世界から注目される場所として、さらに開発が進んでいます。今後の発展が気になるエリアです。



表参道

街路樹が美しい表参道は、平日でも多くの観光客が訪れる人気スポットです。kawaiiやモードファッション発信地の表参道・原宿エリアは、美容室が集中していることでも有名です。



池袋

新宿、渋谷に並ぶ三大副都心の池袋。劇場、水族館、展望台など気楽に老若男女が楽しめる場所が多く、最近ではマンガやアニメの街としても人気です。



神楽坂

石畳と黒塀の路地、おしゃれなフレンチやイタリアンの店、風情ある料亭や古民家を利用したレストランなどで人気の神楽坂は、横丁や路地を散策する人々でいつも賑わっています。



Access

東京女子医科大学へのアクセス



- 若松河田駅下車 若松口より徒歩3分
- 牛込柳町駅下車 西口より徒歩10分
- 曙橋駅下車 A2出口より徒歩12分

大学周辺

校舎周辺は女子医大通りを挟み女子医大病院各施設が立ち並ぶ一大医療エリアです。通り沿いには医薬店、大型スーパー、飲食店が近接しており、近くにはいちご大福の発祥店がある「あけぼのばし商店街」があります。





東京女子医科大学

〒162-8666 東京都新宿区河田町8番1号 TEL03-3353-8111 (代表)
<http://www.twmu.ac.jp/>

入試情報は
こちらから

